

防火ポスターの募集

防火ポスターコンクールを開催し
優良賞(葉山町危険物安全協会会長賞)
五人



対象 町内の小学四年生
内容 火災予防ポスター
題材 消防に関する標語入り(標語は自由)

【参考】平成十九年度全国統一防火標語「火は見てる あなたが離れるその時を」
用紙 画用紙 四つ切サイズ(二八cm×五四cm) 縦・横自由
画材 絵具 ポスターカラー 色鉛筆など自由(版画は除く)
提出先 消防本部消防総務課
※作品の裏側に学校名・学年・クラス・氏名を記載してください。
締切 九月七日(金)

平成十九年九月中旬に審査会を開催し次の賞を選考します。
最優秀賞(町長賞) 一人
最優秀賞(議長賞) 一人
優秀賞(消防長賞) 三人

入賞者には賞状と記念品を授与します。
また応募者全員に参加賞を贈呈します。

◆審査結果は、広報十一月号に掲載します。
◆応募作品は、火災予防期間中に役場ロビー、保育園・教育総合センター学びの広場などで開催の作品展(予定)に掲出します。

問合せ 消防本部

☎八七六一〇二一九 ☎内線三三三



▶ 昨年の作品展の様子

葉山歌壇俳壇

◎特選 *共選

短歌

◎半生を桜にちなむ地に住めり「葉桜」そして「桜ヶ丘」と
〔評〕毎年春になって実感する事は桜に囲まれて棲む幸福感であろう。「桜」が三回も繰返されていますが滑らかなリズムをなしその思いが伝わりやす。今月は春の葉山の海・山の讃歌が沢山寄せられました。

天神の浜辺に生ひ凝る浜木綿は風に耐ふること沖へ傾く
花が役者か舞台が華か一面のつつじ咲く丘 葉山の春は
むらさきの濃淡映ゆる浜だいいん浜えんどうは御用邸裏に
たたなはる三ヶ丘の桜しろたへに雑木のあはひ咲きけぶりけり
遠く見る仙元山は新緑に一重桜もいつしか霞む
八重桜咲く中めぐるコトコトと「坊ちゃん列車」に幼となりて
スズランとリラを咲かせて旭川の父を想ひぬ母を偲びぬ
朝光の渚に拾ふ生ひじき孫の小さき諸手にあまる
夜の道散歩に出ればセンサーは不意に照らしぬ 私善人

岡田 保子 選

米田 宮子
近藤 礼
柳沢 千雪
金井 比佐
渡辺 裕子
小峰 春光
石川サヨ子
沼田 雅子
秋吉美代子
中川 弘子

俳句 沼田葉櫻子 選

◎菜の花や風雨に耐えし石仏 熊本 京子
〔評〕菜の花といえは「菜の花や月は東に日は西に」という蕪村の句が有名である。昔は菜種油を採るために栽培されたが、現在では激減された。この句は菜の花の黄の明るさと石仏の暗いイメージが対照的で、一幅の絵を見るようである。

俳句 浅井 一志 選

◎返信を書きつつ春を惜しみけり 片山 久女
〔評〕少しも難しいことはいっていないが、返信とあるから相手のことを思いつつ、今年の春も過ぎゆくかと。惜しむという感情は過ぎ去るものへの思いがある。返信にはやさしさがあふれているだろう。

電飾に獣めきたる夜の桜 伊藤 青嵐
〔評〕桜は春を代表する花である。花をより美しく見せるため、人為的にイルミネーションを使用する。人は感動するが花にとっては迷惑ではなからうか。「獣めきたる」という表現が面白い。

万緑に薨沈めて古刹かな 安藤とみ子
藤の花水面に光るさざれ波 石川 光子
*二の腕も蹠に少女子夏めきぬ 近藤 礼
歩みては佇ちては古都の花惜しむ 片山 久女
清閑と葉桜の道ありにけり 村上 権次

出口より入りし薔薇園花はまだ 伊藤 青嵐
〔評〕通常は入口から入るのだが、何となくまた間違ったか、家が近くで安直に入ったか。作者は出口より入った。いろいろ連想が働くのは出口だからだ。ここが面白い。しかしながら期待した花はまだであつた。「花はまだ」は、「花いまだ」の方が落ち着くかも知れない。
老婆と二人の句会柿若葉 川崎 虎康
手を振って別れを惜しむ沈丁花 米倉 久恵
巫女掃きて木蔭涼しき社かな 園田 義朗
たんぽぽや歩道幅工事中 村上 権次
*乙女子の二の腕あらわ夏めきぬ 近藤 礼

締切は、掲載希望月の前々月末日必着。はがき1枚に、一人3首か3句まで(当季雑詠)、住所、氏名、電話番号を書いて、企画調整課「葉山歌壇俳壇係」まで